

はじめに

今、私たちが生きている世界は、急速に変化しています。少子高齢化やグローバル化の進展、経済状況や国際情勢の日々の変化など、経験したことのない不安定な時代に直面しています。このような時代を生き抜いていくためには、自分に自信を持ち、自分自身を大切にできること、他者を尊重し、他者と協力しながら、様々な課題を乗り越えていく力が重要です。次期学習指導要領（案）では、主体的・対話的で、深い学びとする学習が提案されており、子どもたちが未踏の時代を一人の自立した人間として、周囲の人たちと協力して、たくましく生き抜いていく力の育成を目指しています。

伊丹市では、「みんなの夢、まちの魅力 ともにつくる 伊丹」の実現に向けて、「子どもの生きる力を育む魅力ある学校教育」を目標に教育行政を推進しております。当センターでは、子どもたちに生きる力を育む「学び続ける教員像」をめざし、現職教員の資質向上のため、様々な研修を実施してまいりました。近年の若手教員の増加、ベテラン教員の大量退職に伴い、それぞれの教職員の経験年数に応じた研修が必要です。また、喫緊の課題を踏まえ、「組織マネジメント」や「授業研究」、「生徒指導」など、教職員が研修していかなければならないことはたくさんあります。

そこで、平成28年度は、管理職対象のトップリーダー研修では、「地域」、「学力」、「危機管理」等について、中堅教員対象のミドルリーダー養成研修については「学校園経営参画力の育成」を目指した研修を実施してまいりました。また、授業力向上（カリキュラム）支援センターでは、若手教員対象のカリセムニ講座や臨時講師等対象セミナー及び教職員の自主的な研修の実施により、延べ2,109人（2月末現在）の利用がありました。さらに、学習意欲を高め、わかる授業づくりのため、大型ディスプレイ・実物投影機等を小・中学校の全普通教室へ設置し、活用に関する研修を実施し、教職員の資質向上に努めてまいりました。

不安定な時代ですが、それを切り開いていくために教育に課せられた使命は大きいと感じます。当センターは、今後も不易な部分とともに、時代の変化に対応し、学び続ける教職員の育成に努めてまいりたいと考えています。どうぞ、研究に一層のご支援ご協力をお願いいたします。

さて、このたび総合教育センターにおける1年間の事業の取り組みを集約し、第57報「研究集録」として発刊する運びとなりました。皆さまにおかれましては、本集録をご一読いただければ幸甚に存じます。結びにあたりまして、本集録の作成に多大なご協力をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。

平成29年3月

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎